

令和4年度 活動報告 (年報)



木曽駒ヶ岳乗越浄土からの千畳敷カールと駒ヶ岳ロープウェイ千畳敷駅（標高2612m）

林野庁 中部森林管理局
木曽森林ふれあい推進センター

令和5年5月22日発行

〒397-0001 長野県木曽郡木曽町福島5473-8
TEL 0264(22)2122
E-mail : kiso-fureai@maff.go.jp

活動内容等

一年を振り返って	…	1
第1 温帯性針葉樹林の保存・復元に向けた取組		
1 三者協定に基づく現地調査（助六実験林）	…	2
2 阿寺地区の人工林ヒノキ優良林分展示林の稚樹調査	…	3
3 中部森林学会で研究発表	…	3
第2 自然再生事業		
1 中央アルプス（木曽駒ヶ岳）における植生復元事業	…	4
2 「城山史跡の森」における希少野生植物等の調査	…	6
第3 ニホンジカによる植生の食害を予防するための調査事業		
1 生息調査	…	8
2 クマ錯誤捕獲防止の実証試験	…	10
3 木曽地区ニホンジカ獣害対策勉強会の実施	…	11
第4 森林環境教育への取組		
1 自然観察学習の実施	…	11
2 （特非）地球緑化センターによる森林整備	…	12
3 教職員を対象とした森林・林業体験学習会	…	13
4 みよし市友好の森ふれあいツアー	…	13
第5 森林散策・木曽谷支援事業		
1 パズルラリー	…	14
年間の活動及び行事等	…	17

活動フィールド

主な活動区域を木曽森林管理署及び南木曽支署管内とし、ニーズに応じて局管内全域で活動する。

沿革等

平成16年	4月	1日	木曽森林環境保全ふれあいセンター設置 (所在地：長野県木曽郡日義村)
平成17年	11月	1日	木曽町誕生による所在地名変更 (所在地：長野県木曽郡木曽町日義)
平成18年	4月	1日	所在地の移転 (所在地：長野県木曽郡木曽町福島5471-1)
平成24年	4月	1日	所在地の移転 (所在地：長野県木曽郡木曽町福島1250-7)
平成25年	4月	1日	名称変更 「木曽森林ふれあい推進センター」
令和4年	11月24日		所在地の移転 (所在地：長野県木曽郡木曽町福島5473-8)

一年を振り返って

令和4年度も引き続き新型コロナウイルスの猛威で年度末でも第8波の影響が残り多くの感染者が毎日発生している状況となっています。それでもコロナ禍の中で経済の正常化として催し物やイベントの開催と規模を拡大する動きもあり、政府もコロナ禍とつき合いながら新しい生活スタイルを行おうとして旅行支援等の諸々の取組を行い、屋外での活動や屋外で人との距離が2m以上離れた会話ではマスク着用は原則不要とする考えが示されています。

このような状況の変化にふれあいセンターの業務をコロナ禍前の状況に戻すことも考えつつ、各学校や関係団体の要望に可能な限り応えて森林教室や森林整備活動の支援等を行った一年でした。

また、木曽森林ふれあい推進センター事務所は、平成16年4月に旧福島営林署（現御料館）から木曽町日義の民間施設に移転し、平成18年4月には木曽町へ売却した福島営林署第二庁舎、平成24年4月に木曽町の旧水道局、そして新たに（国研）森林機構 森林総合研究所旧木曽試験地事務所内へ移転すべく調整を続けてきましたが、条件整備が整い令和4年11月24日に事務所の移転が無事完了しました。事務所の移転に関してはその都度、関係の皆さんにご支援とご協力をいただき新事務所に至ったことに深く感謝申し上げます。令和3年4月より職員体制が4名から3名となっており、清掃や修繕作業で移転出来るまで大変な作業がありましたが、事業の継続性の重要度や地域への貢献度を念頭に効率的な事業を進めるためのベースとなる事務所の環境は一定基準を満たすことが出来たと考えます。これからは新事務所から創意工夫を試みながら地方自治体や学校関係者、NPO関係者、研究機関など多くの皆さんのご理解とご協力をいただき事業を進めて行きたいと考えます。

令和4年度に当センターが行った取組の一部について紹介させていただきます。（詳しい取組み内容については次項以降をご覧ください。）

1. 自然再生・生物の多様性の保全・その他森林整備の推進・技術的指導
 - ①三者協定（信州大学農学部・森林総合研究所・中部森林管理局）に基づき王滝村にある 助六実験林及び三浦実験林で更新調査。
 - ②木曽駒ヶ岳植生復元事業での植生マットの補修・播種作業。
 - ③城山史跡の森（城山国有林）での希少野生植物の保護活動及び植生調査。
 - ④野生動物の生息調査等（ニホンジカ食害予防対策としての生息調査、ライトセンサス、クマ錯誤捕獲防止の実証試験）。調査結果は当センターホームページに公開しています。
2. 森林に関する教育・学習に対する指導
 - ①木曽地域の教職員への森林林業体験学習会の実施
 - ②学生たちへの体験学習・森林散策の指導・案内の実施
 - ③森林整備協定による地球緑化センターへの間伐指導（年2回）
 - ④愛知県みよし市体験林業（間伐指導）
 - ⑤木曽十一宿（旧中山道の宿場町）、赤沢自然休養林、御岳山麓の3つのエリアでパズルラリーを開催。

一年間多くの関係機関の皆様のご理解とご協力をいただきながら事業活動を行って参りました。令和5年度も当センターとして自然再生事業や地域振興等を継続して取り組んでいきますので、これまでと同様にご理解ご協力ををお願いします。

【所長 由井克彦】

第1 温帯性針葉樹林の保存・復元に向けた取組

木曽悠久の森

天然のヒノキ、サワラ等を交える木曽地方の森林は、良質な木材産地として古くから歴史的建造物の維持や地場産業の継承・振興に大きな役割を果たし、温帯性針葉樹がまとまって自然度の高い状態を構成していることから、世界的にも貴重な森林となっています。

中部森林管理局では、木曽地方（長野県木曽地域及び岐阜県裏木曽地域）の温帯性針葉樹林の保存と復元を図る取組を通じて、先人たちが守り育ててきた森林からもたらされるさまざまな恩恵を将来にわたって維持できるようにすることを目的に「木曽悠久の森」を設定し、当センターでは局・関係署等との連携を通じた取組を行っています。

広がりを持って永続する天然林へ復元させる作業を人工林の優良木材も得つつ、超長期にわたって計画的に行うため、3つのエリア（コアa（核心地域）、コアb（核心地域）、バッファ（緩衝地域））を設定しています。



位置図



温帯性針葉樹林（木曽郡上松町）

- ※ コアa（核心地域）：温帯性針葉樹林を厳格に保存する区域
- コアb（核心地域）：温帯性針葉樹林の復元を図る区域
- バッファ（緩衝地域）：コアを守るための区域

1 三者協定に基づく現地調査（助六実験林）

中部森林管理局では、平成28年度に信州大学農学部および（国研）森林機構 森林総合研究所との間で、「森林・林業及び木材利用に関する研究・技術開発等における連携と協力に関する協定」を締結しました。

この協定は、それぞれが実施する研究、事業、イベント等において、連携・協力を行い、地域の森林・林業と木材利用の課題を解決し、併せてその成果を活用する取組によって地域振興を図ることを目的としたものです。



試験地の全景



プロット内の稚樹調査

今年度は三者の連携により、「木曽悠久の森」のコア a に属し、湿性ポドゾル土壌地帯の木曽ヒノキ天然更新技術の確立を目的に設定された、木曽郡王滝村の「助六（すけろく）実験林」において、ヒノキ等の稚樹調査を行いました。

調査は、1m×2mのプロット8箇所ではヒノキ、広葉樹等の稚樹と更新の妨げとなるササ等の生育調査を行うとともに、高さ1m以上に生育したヒノキ等を調査対象として令和元年度に設定されたベルトプロット（4m×50m）で、今後の円滑な調査のため、各個体へ番号札の取り付けを行いました。

2 阿寺地区の人工林ヒノキ優良林分展示林の更新調査

人工林から天然林へ復元するコア b では、森林のもつ公益的機能に支障が生じないように間伐等の保育を適切に行って、林内の天然稚樹の発生と生長を促す等、自然の推移を踏まえた長期にわたる育成複層林施業等の実施により、天然ヒノキの大径木を主体とした林型への誘導を行っています。

当センターでは、平成25年度の間伐によって林内にヒノキ等の稚樹が発生していた、木曽郡大桑村にある阿寺国有林の「人工林ヒノキ優良林分展示林」において、平成28年度から実施している高齢級間伐林分の更新状況等の把握と併せ、「木曽悠久の森」に関する取組として各種調査等に着手し、今年度は第4回目の更新調査を実施しました。



展示林の入口（阿寺国有林）



プロット内の更新調査

3 中部森林学会で研究発表

11月19日に三重県津市の三重大学において中部森林学会の大会が開催され、当センターから「木曽ヒノキ林成立以前の森林から森林管理を考える」と題して研究発表を行いました。

この発表は、（国研）森林機構 森林総合研究所との協働で、長野県上松町にある小川入国有林内の木曽ヒノキの古い根株を「酸素同位体比分析」により調査し、古代の林分構造を推定するもので、令和3年度の中部森林管理局技術交流発表会で行った発表内容に今年度の新たな解析結果を追加したものです。



当センター職員による発表の様子

発表後には、聴講者から「比較の対照となる標準酸素同位体比データの考え方について教えてほしい」と専門的な質問が出される等、発表内容に大変興味を持っていただくことができました。

この大会では、林政、造林等の8分野で77題の研究発表が行われ、当センター職員も発表以外の時間は、日頃の業務で参考になる他の参加者の発表を聴講することができ、大変有意義なものとなりました。

第2 自然再生事業

趣旨

NPO等との連携を図りつつ、地域ニーズ等に対応した自然再生の取組を推進し、自然再生活動事業を実施します。

1 中央アルプス（木曾駒ヶ岳）における植生復元事業

(1) 事業概要

中央アルプス木曾駒ヶ岳周辺においては、登山者による踏み荒らしや大量の降雨、降雪等による砂礫の移動等により高山植物の生育地が荒廃し、貴重な高山植物の衰退が懸念されています。

平成16年、植生荒廃の著しい登山道周辺において、高山植物の現況と将来的に荒廃した植生の復元を図るため、関係する行政機関、学識経験者、山岳会、自然保護団体、NPO等を含めた幅広い分野の専門家による検討会を立上げ、植生の復元・維持管理のための具体的な方法等に関する検討を行い、それを基に方針を立て関係署および関係機関の協力の下、平成17年度より植生復元事業を実施しています。

◎年度別マットによる敷設経過

年 月 日	敷 設 箇 所	面積 (㎡)	参加者 (人)
17. 9. 29	天狗荘裏	210	26
18. 9. 21	天狗荘裏	210	30
19. 9. 19	伊那前岳八合目	210	36
20. 9. 18	乗越浄土・伊那前岳九合目・登山道沿い	213	31
21. 9. 2	駒ヶ岳頂上山荘横（鞍部）	202	31
22. 9. 14	天狗荘裏・伊那前岳方面	200	33
23. 9. 15	天狗荘北西・伊那前岳方面の新規と補修	191	36
24. 9. 12	駒ヶ岳山頂等・伊那前岳方面の新規と補修	235	36
25. 9. 12	極楽平周辺・三の沢岳登山道周辺	140	29
26. 9. 11	頂上山荘横・伊那前岳方面の新規と補修	156	46
27. 10. 13	(荒天のため中止)		
28. 7. 20	天狗荘裏・頂上山荘周辺・伊那前岳方面	150	12
28. 9. 9	天狗荘周辺・伊那前岳方面	106	30
29. 9. 14	天狗荘裏	95	16
30. 9. 13	天狗荘裏	80	13
元. 9. 1	天狗荘裏	80	15
2. 10. 1	駒ヶ岳頂上山荘横（鞍部）	150	12

3. 9. 2 7	乗越浄土・伊那前岳 9 合目	6 0	1 1
4. 9. 8	伊那前岳 9 合目	2 2 0	2 4
計		2, 9 0 8	4 6 7

注) 参加者には、ボランティア、行政機関等を含む。
面積は延べである。

(2) 令和4年度の取組

今年度の植生復元事業として、9月8日に伊那前岳の9合目において植生マットの敷設とこの付近一帯に自生する高山植物の播種を行いました。

今回実施した場所は前年度実行箇所との隣接地で、作業は長野県、宮田村、南信及び木曽森林管理署等の職員に応援をいただき総勢24名により実施しました。

事業の実施にあたり、植生マット等の資材は事前の作業地確認や種子採取の際にあらかじめ現地まで運搬し、宝剣山荘に仮置きさせてもらっていたため、当日は急な登り坂の荷物運搬はありませんでした。

しかし、この日は台風の影響により大気が不安定で、作業は強い雨が降る厳しい条件下で行うこととなり参加者には大変な作業となりましたが、皆で連携して作業を進めたため、予定した植生マット敷設と播種を無事に終了することができました。

今年度の作業地付近には近年に敷設した箇所があり、そこには高山植物の稚樹が散見される等、少しずつではあるものの、これまでの取組の成果を実感することができます。

また、この復元作業により、作業区域を視覚的に認識することができ、登山道以外への踏み込みの抑止と表土の保全や種子の保持等が期待できることから、今後も関係機関と連携し継続して実施していく考えです。



急な登り坂の荷物運搬



採取する種子の確認



植生マットの敷設作業



完了した作業地

2 「城山史跡の森」における希少野生植物等の調査

木曽郡木曽町福島市街地の北西に位置する城山（じょうやま）国有林は、戦国時代に木曽氏によって築かれた山城の福島城跡や木曽義仲にまつわる権現滝等の史跡に恵まれ、木曽福島駅から比較的短時間で木曽ヒノキ等の大径木や季節ごとの植物観察を気軽にできるコースとして県内外から観光客が訪れています。

また、「城山史跡の森」は、福島城跡一帯の国有林、寺社有林等を利用した気軽にハイキングコースとして知られており、木曽川下流域の人たちとの交流の場としても活用されています。



城山の遊歩道から見える紅葉

（1）希少野生植物等の生育箇所の整備

城山国有林には、長野県希少野生動植物保護条例に指定されているササユリ、ヤマシャクヤク、カザグルマの他、各地で保護活動が盛んになっているカタクリの自生地があります。今年度も植生状況調査にあわせ、ササユリ自生地において野生動物による食害防止のための電気柵設置やカザグルマ自生地でのツル植物の除去作業等を行いました。

① カタクリの開花状況



開花の様子（4月19日）

年々、開花が早くなっているように感じます。個体数は増えていますが、開花する個体数は少ない状況です。

② ヤマシャクヤクの開花状況

今年は大型連休中に開花したため、調査時には多くの個体が散り始めていました。



開花の様子（5月10日）

③ カザグルマの開花状況

今年も綺麗に咲いてくれました。



開花の様子（5月16日）



ツルの整理、周囲の草刈り（5月16日）

④ ササユリの保護と開花状況

毎年、野生動物の食害から守ることを目的に電気柵を設置しています。

それに併せて、センサーカメラを設置していますが、イノシシの他にクマ、カモシカ、サル等が撮影されています。



電気柵の設置（5月16日）



開花の様子（6月13日）

⑤ 近年の開花状況

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
カタクリ	10 (421)	7 (310)	8 (374)
ヤマシャクヤク	196 (440)	172 (502)	271 (336)
カザグルマ	134 (109)	17 (137)	8 (124)
ササユリ	32 (101)	14 (59)	22 (61)

() 内は個体数で外書き カザグルマは蔓本数

第3 ニホンジカによる植生の食害を予防するための調査事業

近年、全国的なニホンジカ（以下、シカ）の生息数の増加により、森林被害の増加や森林生態系への影響が報告されています。

木曽地域では現在、著しい森林被害はみられないものの、木曽地域の東に位置する中央アルプス山麓ではシカの出現が年々増加傾向で、今後、他地域からの侵入等による森林被害増加が懸念されるため、木曽森林管理署及び木曽森林管理署南木曽支署において現地の実態に応じた対策が進められています。

当センターでも関係機関等と連携を図り、センサーカメラ等による生息調査やくくりワナによるクマ錯誤捕獲防止の実証試験を行いました。

1 生息調査

(1) センサーカメラによる生息調査

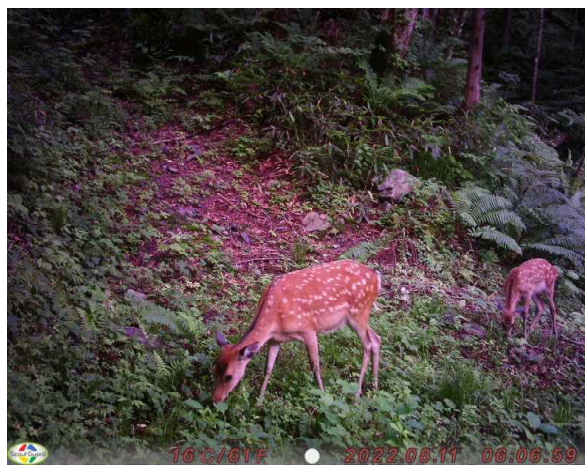
平成28年度から中央アルプス、御嶽山麓の高山地帯と山麓地帯の国有林にセンサーカメラを設置し、シカの生息状況の観測を行っており、シカが撮影された地点ではカメラを増設し撮影を続けています。

令和2年度までの調査で、中央アルプス、御嶽山の高山地帯でニホンジカの生息範囲が広がっていることが確認されたため、令和3年度以降の調査では、シカの捕獲事業等を見据え、里山に近い山麓地帯での調査に重点を置き、11箇所でセンサーカメラによる撮影調査を行いました。

今年度の調査では、これまでも撮影数が少なかった城山国有林等では撮影されなかったものの、以前から撮影数が多かった木曽駒山麓線、奈良井国有林、伊奈川ダム上流等を中心に全体では多くのシカが撮影されました。



木曽地域のニホンジカ個体数調査箇所

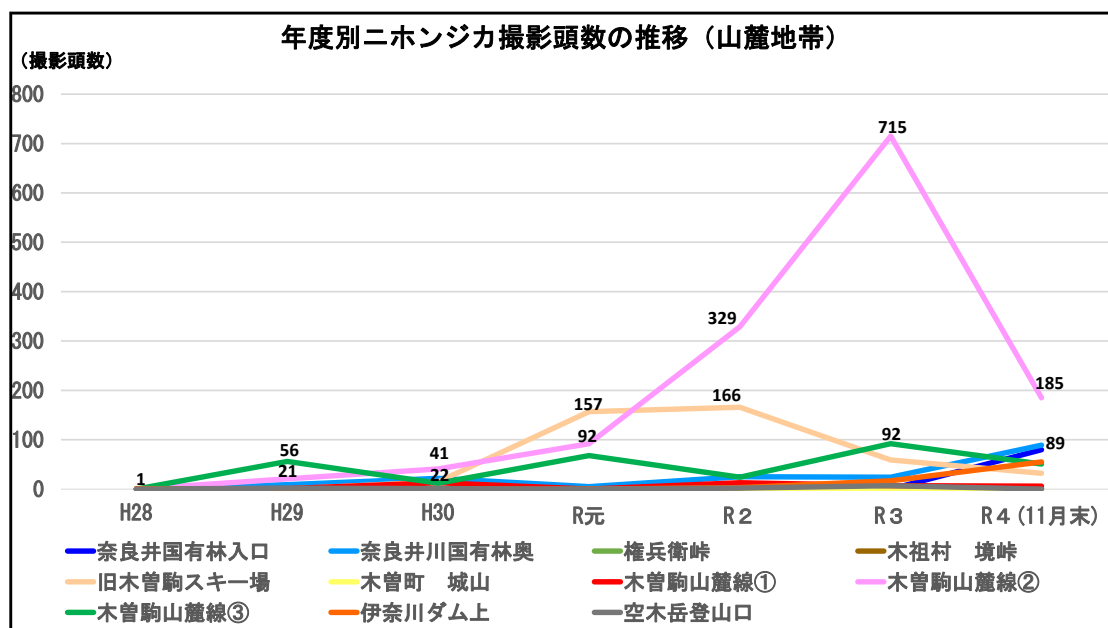


奈良井国有林（塩尻市） シカの親子



八沢入国有林（木曽町） オスとメスのシカ

観測調査は平成28年度から毎年度行っており、各設置箇所毎の撮影頭数の推移と性別の集計は以下のとおりとなります。



年度別・性別撮影頭数

		(頭)						
年度	性別	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4 (11月末)
オス		1	37	58	247	296	478	126
メス		0	51	44	74	231	325	336
子		0	2	0	0	40	2	13
性別不明		0	0	2	1	1	117	26
計		1	90	104	322	568	922	501

令和3年度の木曽駒山麓線②については、カメラ設置箇所付近に以前の調査で使
用した餌（岩塩）の成分が残留していたため、シカが寄りつき突出した頭数になっ
たと思われます。全体としては、年度ごとの撮影数は上下するものの、年々撮影頭
数は増加しています。また、性別でみると令和3年度まではオスジカの撮影数が多
い状況でしたが、今年度はメスジカの撮影数が多くなっており、メスジカの出産等
を考慮すると、今後の更なる生息数増加と森林被害が懸念されます。

(2) ライトセンサスの実施

ライトセンサスによるニホンジカの生息調査は、木曽町の木曽駒山麓線と王滝村
の御嶽王滝黒沢線において、木曽地域振興局および木曽森林管理署の協力も得なが
ら、6月、9月および10月に月1回程度実施しました。



自動車によるライトセンサス



ライト照射で確認したシカ

調査の結果、木曽駒山麓線でメスジカを確認しましたが、この区域では平成30年度以降シカと思われるものも含め毎年度生息を確認しており、近隣に設置したセンサーカメラでもシカが多く撮影されているから、区域一帯で個体数が増加していると考えられます。一方、御嶽王滝黒沢線ではシカの生息は確認できず、ここ数年の調査からも特に増加している状況ではありませんでした。

平成29年度からの調査結果は下表のとおりですが、この調査では目撃回数は少ないものの、今後のシカの増加や活動範囲の変化等を読み取る上では大切なデータのひとつと考えられ、より精度が高い調査となるよう改善を行いながら、引き続き調査を進めていきます。

(頭)

年度	木曽駒山麓線				御岳王滝黒沢線			
	シカ			不明	シカ			不明
	オス	メス	子		オス	メス	子	
H29	0	0	0	0	未実施			
H30	1	0	0	1	0	0	0	2
R元	0	0	0	2	0	0	0	1
R2	0	0	(1)	0	0	0	0	1
R3	0	2	1	0	0	0	0	1
R4	0	1	0	0	0	0	0	0

()は実施区間外

2 クマ錯誤捕獲防止の実証試験

木曽地域ではツキノワグマ（以下、クマ）の生息が多数確認されており、くくりワナによる「クマの錯誤捕獲」が問題となっています。

このため、当センターでは木曽猟友会に委託し、クマ錯誤捕獲防止の実証試験を大桑村の伊奈川国有林と木曽町の八沢入国有林で実施しました。

試験は平成29年度以降毎年実施してきており、シカとクマの足の特徴を踏まえ、ワナに載せるフタや条件を変えて検証してきましたが、これまでクマの捕獲はなかったものの、捕獲対象のシカが捕獲できなかったことから、今年度は「笠松式」等の5種類のワナの上に、フタとしてバネ無しくくりワナ「いのしか御用」を載せた方式で検証を行いました。

結果として、シカやクマがワナを通過する動画は撮影されましたが、シカを捕獲することはできませんでした。

試験開始から6年間検証を行ってきましたが、これまでの結果からワナに「いのしか御用」等のフタを載せることで、クマの錯誤捕獲防止には一定の効果はあるものの、シカ捕獲には更なるワナの設置方法等の工夫が必要と思われます。

今後においては、錯誤捕獲があった場合の放獣作業の方法・体制づくりを検討していくとともに、錯誤捕獲防止用の製品開発、他地域の試験結果等の情報共有等、引き続き関係機関で連携し、錯誤捕獲防止に向けた取組が大切であると考えます。



「いのしか御用」＋5種類のワナ



ワナの設置作業

3 木曽地区ニホンジカ獣害対策勉強会の実施

2月20日、長野県木曽町の木曽地域振興局において、木曽地域では初めてとなる「令和4年度木曽地区ニホンジカ獣害対策勉強会」が開催され、木曽郡内の各町村、猟友会、長野県及び国有林の各機関の関係者約80名が参加しました。

この勉強会は、前述のとおり木曽地域においても今後の被害拡大が懸念されるため、この地域の現状と今後の対策等について情報共有を図り、獣害対策に繋げることを目的に開催されたものです。

初めに（一財）自然環境研究センターから長野県の取組として「令和4年度広域捕獲活動緊急支援事業 浅間山県境部での状況調査の事例」の発表があり、次に当センターから「国有林におけるニホンジカ被害対策の取組」と題し、センサーカメラ等によるシカの生息状況の調査結果やクマ錯誤捕獲防止の実証試験について報告を行いました。

最後に（国研）森林機構 森林総合研究所から「ニホンジカの生態と被害対策-木曽地区の森林について」の発表があり、メスジカは長寿で毎年出産するため、年率20%ずつ個体数が増加するという興味深い話がありました。

参加者からは「ニホンジカの足跡や糞の特徴」や「保護政策前のニホンジカの生息状況」等について質問が出されました。

この勉強会を通して、現行の捕獲を継続しながら、今から担い手の育成や関係機関との地域連携を行っていくことが重要との認識が共有できました。



勉強会の様子



発表する当センター職員

第4 森林環境教育への取組

1 自然観察実習の実施

5月12日、木曽郡上松町の赤沢自然休養林で、岐阜県立加茂農林高等学校森林科学科の2年生33名を対象とした自然観察実習が開催され、当センター職員が現地案内を行いました。

この自然学習は「日本三大美林の一つである木曽ヒノキ林を見学し、人工林施業の歴史の理解を深める」を目的とするもので、午前中に職員が赤沢自然休養林の概要や木曽五木の特徴等を説明しながら休養林内を案内しました。



「木曽地域の林業」の説明を聞く生徒



森林資料館で木曽谷のジオラマを見学

午後からは休養林内にある森林鉄道記念館や森林資料館の見学を行い、ボールドウィン（アメリカ製の蒸気機関車）等と記念撮影をしたり、木曽谷のジオラマや年輪板を熱心に見入る等、林業の歴史にも興味を持つ姿が見られました。引率した先生からは「森林に親しみながら、木曽地域の林業の歴史を学ぶことができました。充実した学習となったことに感謝します」との感想をいただきました。

2 (特非) 地球緑化センターによる森林整備

(特非) 地球緑化センターは、日本各地での森林を守り育てるための活動を推進するため、平成8年に赤沢自然休養林において「山と緑の協力隊」第1回プログラムを開始し、その後、木曽森林管理署との間で「ふれあいの森（名称：『大樹の森・赤沢』）」の協定を締結し、毎年春と秋に森林整備を実施しています。

今年度は新型コロナウイルスが落ち着いてきたこともあり、3年ぶりに年2回開催され、当センターと木曽森林管理署でヒノキの除伐作業の技術指導を行いました。

春期は、5月21日・22日の2日間開催され、徳島県等の遠方から7名のボランティアの参加がありました。

初日は当センターで指導を行い、伐倒実演後、2班に分かれ作業に入りました。

ボランティアの中には、このプログラムに参加しているリピーターもみえ、初めての参加者はメンバーから伐倒方向やかかり木処理等を教わりながら楽しく作業を行っていました。下山後は、木曽森林管理署の事業で林道脇に駐機してあった高性能林業機械の説明を受け1日目を終了しました。



伐倒実演の様子



伐倒作業を行う参加者

2日目は、木曽森林管理署での指導のもと作業を行い、終了後は平成17年に御杣始祭（みそまはじめさい）が開催された場所へ移動し、御神木の選木の条件等の説明を受けプログラムを終了しました。

また、秋期は、10月22日・23日の2日間に11名の参加により、春期の続きの箇所で作業が行われました。

春期、秋期とも怪我がなく無事終了し、「森林の整備に協力できて良かった」、「この活動にまた参加したい」等の感想が寄せられ、日頃訪れることのない木曽地域での森林整備が貴重な体験となったようでした。

3 教職員を対象とした森林・林業体験学習会

8月3日、木曽郡上松町の赤沢自然休養林で、木曽地域の小中学校の教職員を対象とした「森林・林業体験学習会」を開催しました。

この学習会は、学校の教職員に森林・林業の役割や森林環境教育の重要性についての認識を高めてもらい、それを学校教育の中に積極的に導入してもらうことを目的として、長野県との共催により平成14年度から開始しています。

今年度は、調査・研究や森林学習を目的とする場合に入林できる学術研究路を中心に案内することとし、コースの中に、当センターがこの地域の古代の林分構造を推定するために「酸素同位体比分析」を行った、木曽ヒノキの古い根株の見学も取り入れ実施しました。

当日は7名の教職員が参加しましたが、木曽五木の生育する森林や昭和60年の御杣始祭（みそまひじめさい）の開催地、調査研究を行った古い根株に大変興味を持たれた様子で、当センター職員の説明を熱心に聞き入っていました。

学習会の終了後、先生方からは、「木曽ヒノキをはじめとする大樹に圧倒された」、「普段立ち入ることのできない場所を見学し、子供たちへの教育に大変参考になった」との感想をいただきました。また、後日になって、参加された先生のひとりから、「子供たちに木曽五木の学習をさせたい」と森林学習の依頼があり、日をあらためて、木曽森林管理署から同校の生徒たちに森林・林業体験を行いました。



森林鉄道終点駅での木曽五木の説明



天眼鏡で古い根株の年輪を数える参加者

4 みよし市友好の森ふれあいツアー

8月27日、木曽町三岳地区において「みよし市友好の森ふれあいツアー」が開催され、当センターと木曽町森林組合の職員が協力して間伐作業等の指導を行いました。

この「みよし市友好の森」は、元々国有林であった森林を、平成3年度・11年度に当時の愛知県三好町が住民の暮らしで恩恵を受けている木曽川の水源地の保全等を目的に取得したもので、平成15年からふれあいツアーが開催されているものです。



作業地に向かう参加者



ノコギリを使った間伐体験

当センターでは、ツアーの開始当時から除間伐作業の指導を行っていますが、新型コロナウイルスの影響のため今回は3年ぶりの開催となりました。

早朝、みよし市を出発した市民18名は現地に到着後、5班に分かれヒノキの間伐作業とクマによるヒノキの皮剥ぎ被害防止のためのテープ巻き作業を体験しました。

この日は大気が不安定で午前中は雨模様でしたが、午後になると雨もあがり予定した作業は怪我もなく無事に終了しました。

ツアー終了後にみよし市が参加者に行ったアンケートでは、「木を伐ることが楽しかった」、「また木曽町を訪れたい」との感想が寄せられ、指導を行った私達職員もこの活動の大切さを再認識するとともに、今後も継続して取り組んでいく必要性を感じました。

第5 森林散策・木曽谷支援事業

1 パズルラリー

平成26年に発生した御嶽山噴火災害により、木曽谷の観光産業は大きな打撃を受け、新型コロナウイルス感染症の影響も重なり、この地域を訪れる観光客数は災害発生前の水準に戻っていない状況となっています。

こうした中、当センターでは、「森林に親しみながら、その大切さを理解してもらう」というコンセプトと木曽地域の観光産業への支援のため、木曽街道にちなんだ「中山道木曽十一宿パズルラリー」、「御嶽山麓トレッキングパズルラリー」および「赤沢自然休養林トレッキングパズルラリー」を実施しています。

(1) 中山道 木曽十一宿パズルラリー第2弾

旧中山道である木曽街道には十一の旧宿場があり、長野県塩尻市の贄川（にえかわ）宿から木曽郡木曽町の福島宿までを北部、木曽郡上松町の上松宿から岐阜県中津川市の馬籠（まごめ）宿までを南部として実施しています。

北部と南部にある旧宿場や関所跡等の12箇所に分割した2種類の浮世絵の木製ピースを置き、これらを全て集めると2種類の絵柄が完成するもので、パズルの絵柄は、江戸時代の浮世絵師「歌川広重」が描いた木曽海道六十九次の中から、北部は「奈良井宿」、南部は「須原宿」を採用しています。

第2弾は令和2年1月から開始していますが、北部、南部でそれぞれ300セットを用意し、それが無くなり次第終了としており、令和4年度は、北部、南部の両方を達成した方、片方のみを達成した方を合わせて40名となりました。

令和3年度までは、パズルピースの配付場所に無人施設もあり、参加者から地元住民との会話等を求める声もあったことから、関係機関の協力をいただき、今年度からは全てのパズルポイントを有人施設に設置しました。

その結果、その地域の観光スポットの紹介が行われる等、地元住民と観光客のふれあいがこれまで以上に増え、訪れた方々に楽しんでいただいています。



北部の完成品（奈良井宿）

南部の完成品（須原宿）

（２）御嶽山麓トレッキングパズルラリー

木曽谷観光産業のさらなる復興支援として、令和２年８月より「御嶽山麓トレッキングパズルラリー」を行っており、今年度も御嶽山などの利用者が多い６月下旬から１１月上旬にかけて実施しました。

このパズルラリーでは、木製ピースの配付場所を「御岳ロープウェイ駅」、「温泉施設やまゆり荘」、「王滝村観光総合事務所」、「開田高原観光案内所」の４箇所を設置しており、全パズルピースを集め、応募用紙と一緒に当センターに送付または直接持参していただくと張り板と台座を贈呈するものです。

パズルの絵柄は、木曽十一宿パズルラリーと同じく「歌川広重」が描いた「木曽路之山川」を採用しています。

今年度の参加者は昨年度よりも多い１６名となり、参加された方からは「新たな名所を訪れることができて良かった」等の感想を多くいただきましたが、「良い企画なのでもっとＰＲした方がよい」との意見もあったことから、今後は関係機関の協力もいただきながら、より多くの方が参加しやすいパズルラリーの実施に向けて取り組んでいきたいと思ひます。



御岳山麓パズルラリーの完成品

（３）赤沢自然休養林トレッキングパズルラリー

赤沢自然休養林の開園に合わせた４月下旬から１１月上旬にかけて、「赤沢自然休養林トレッキングパズルラリー」第７弾と第８弾を実施しました。

このラリーは、休養林の遊歩道を散策しながら、途中にある６箇所の全てのスタンプを押すと木製パズルセットがもらえるもので、パズルの絵柄には、江戸時代後期頃の木曽地方や飛騨地方の奥山で大木を伐採するところから、木曽川を利用した流送、熱田白鳥貯木場（愛知県名古屋市）での集積、大型船による海上輸送までの一連の様子が描かれた「木曽式伐木運材図会」を使用しています。



全ポイントを達成した応募用紙

令和5年度も地元町村や観光協会等の協力を得ながら、木曽谷支援の取組として参加頂いた方の要望に応えられるよう引き続き実施していきたいと思ひます。

パズルラリーの詳しい内容は当センターのホームページに掲載しています。

第7弾のパズルの絵柄には、桴（いかだ）により木曽川で木材を流送する場面が描かれた「鴨桴之図（かもいかだのず）」を採用し、前年度に引き続き実施しましたが、企画が好評で新型コロナウイルスの感染が落ち着いてきたこともあり、7月には用意したパズルが全て終了しました。

このため、第8弾は、桴による流送で、労働者達が作業の合間に余興を行っている場面の「角乗之図（かくのりのず）」により、パズル300枚を製作して10月からラリーを開始しました。

この第8弾も好評で11月の閉園までに200組近い方が全ポイントを達成しました。

パズルラリーは平成28年度から始めた取組ですが、参加者だけでなく協賛していただいている関係団体からも「来園者に好評なので継続して欲しい」との要望が寄せられています。



第8弾「角乗之図」の完成品

年間の活動及び行事等

月	日	活 動 内 容
4	12	木曽十一宿パズルラリー確認(北部)
	14	木曽十一宿パズルラリー確認(南部)
	18	奈良井国有林・小木曽国有林内 センサーカメラデータ回収(塩尻市・木祖村)
	19	カタクリ開花調査(木曽町城山国有林)
		王滝村「王滝やまのこ学校協議会」
	20	伊奈川国有林内 センサーカメラデータ回収(大桑村)
	21	八沢入国有林・裏駒ヶ岳国有林内 センサーカメラデータ回収(木曽町)
	22	赤沢自然休養林 現地案内研修(上松町小川入国有林)
	28	赤沢自然休養林 パズルラリー箱設置(上松町小川入国有林)
5	9	赤沢自然休養林 パズルラリー箱確認(上松町小川入国有林)
	10	城山史跡の森 ヤマシャクヤク開花調査(木曽町城山国有林)
	12	岐阜県立加茂農林高校 赤沢自然休養林案内(上松町小川入国有林)
	16	城山史跡の森 ササユリ電気柵設置(木曽町城山国有林)
	21	(特非)地球緑化センター森林整備(上松町小川入国有林)
	30	赤沢自然休養林 パズルラリー箱確認(上松町小川入国有林)
	31～2	木曽ヒノキ天然更新試験地調査(森林総合研究所・木曽森林管理署共同)(王滝村三浦国有林)
6	3	長野県上松技術専門校体験林業(上松町小川入国有林)
	9	第1回 ライトセンサスによるニホンジカ生息調査(木曽町八沢入国有林ほか)
	13	城山史跡の森 ササユリ開花調査(木曽町城山国有林)
	20	木曽十一宿パズルラリー確認(南部)
		伊奈川国有林内 センサーカメラデータ回収(大桑村)
	28	木曽駒ヶ岳植生復元予定箇所現地確認(上伊那郡宮田村黒川国有林)
7	11	上松中学校森林体験学習(上松町小川入国有林)
	19	行政懇談会(王滝村)
	20	鳥獣保護及び狩猟に関する講習会(南信署)
		行政懇談会(上松町)
	25	行政懇談会(木祖村)
	27	行政懇談会(木曽町)
8	3	教職員森林・林業体験学習会(上松町小川入国有林)
	9	木曽駒ヶ岳植生復元種子採取(上伊那郡宮田村黒川国有林)
	19	小木曽国有林、奈良井国有林、八沢入国有林内センサーカメラデータ回収(木祖村、塩尻市、木曽町)
	23	木曽駒ヶ岳植生復元種子採取(上伊那郡宮田村黒川国有林)
	27	愛知県みよし市友好の森森林整備(木曽町)
	26～31	三者協定に基づく助六実験林調査(王滝村王滝国有林)
9	9	木曽駒ヶ岳植生復元作業(上伊那郡宮田村黒川国有林)
	20	上松小学校森林林業学習会事前準備(上松町小川入国有林)
	27	令和4年度木曽地区ニホンジカ獣害対策勉強会打ち合わせ(木曽署)
		第2回 ライトセンサスによるニホンジカ生息調査(王滝村御岳国有林ほか)

年間の活動及び行事等

月	日	活 動 内 容
10	4	第3回 ライトセンサスによるニホンジカ生息調査(木曽町八沢入国有林ほか)
	9	名古屋市熱田区民まつり(名古屋市)
	14	赤沢自然休養林内 古い根株確認(上松町小川入国有林)
	22	(特非)地球緑化センター森林整備(上松町小川入国有林)
	24～26	木曽ヒノキ天然更新試験地調査(森林総合研究所・木曽森林管理署共同)(王滝村三浦国有林)
11	2	木曽地区町村有志連絡協議会(木曽署)
	7	「人工林ヒノキ優良林分展示林」調査(大桑村阿寺国有林)
	8	城山史跡の森 ササユリ電気柵撤去(木曽町城山国有林)
	9	赤沢自然休養林 パズルラリー一箱撤去(上松町小川入国有林)
	11	伊奈川国有林内 センサーカメラデータ回収(大桑村)
	18～20	中部森林学会大会研究発表(三重大学)
	24	事務所移転
	28	奈良井国有林内 センサーカメラデータ回収(塩尻市)
12	1	技術開発委員会(中部局)
		伊奈川国有林内 センサーカメラデータ回収(大桑村)
		木曽十一宿パズルラリー確認(南部)
	6	令和4年度木曽地区ニホンジカ獣害対策勉強会打ち合わせ(木曽署)
	20	八沢入国有林・裏駒ヶ岳国有林内 センサーカメラデータ回収(木曽町)
1	18	中部森林管理局長と木曽郡町村長意見交換会(木曽町)
2	14	令和4年度森林ボランティア・NPO連携推進会議実行委員会(上田市菅平)
	20	令和4年度木曽地区ニホンジカ獣害対策勉強会(長野県木曽地域振興局)
	27	令和4年度「木曽悠久の森」植生管理専門部会、森林総合利用・地域振興専門部会(WEB会議)
	28	三者協定に関わる打ち合わせ会議(WEB会議)
3	6	信濃毎日新聞取材(赤沢自然休養林内の古い根株の年代解析)
	8	環境省が進める保護増殖事業の概要とライチョウの基礎知識勉強会(南信署)
	9	令和4年度林政協議会木曽谷流域部会(木曽署)